

サイトレポート

法規制と環境基準を遵守し、地域との調和をめざして活動しています。

規制違反の状況

…今年度、各種環境規制に違反する事故はありません。

環境関連訴訟や事故の状況

…今年度、該当する訴訟や事故はありません。

特に記載のないものは報告対象期間である2002.2～2003.1の調査データです。

東北工場

〒981-4122

宮城県加美郡色麻町大原8

設立年月:1997年8月

工場総面積:121,458m²

ISO14001認証取得
2001年3月26日



主なエネルギー・資源使用量

エネルギー・資源	単位	消費量
電力	kWh	3,226,020.0
灯油	kℓ	0.7
A重油	kℓ	615.0
LPG	m ³	235,803.7
上水使用量	m ³	33,061.3
地下水使用量	m ³	0.0

副産物発生総量及び主要品目(単位:t)

発生物	総量	リサイクル量	処分量	リサイクル率
副産物総量	2,272.6	2,272.6	0.0	100%
木くず	156.5	156.5	0.0	100%
廃プラ	121.5	121.5	0.0	100%
金属くず	1,158.5	1,158.5	0.0	100%
ガラス・陶磁器くず	174.7	174.7	0.0	100%

大気分析結果(数値の最も大きいもの)

排出物	単位	実績値	法規制値
NOx	ppm	880	950
SOx	m ³ N/h	0.16	2.3
ばいじん	g/m ³ N	0.043	0.1

水質分析結果(01年11月～02年10月の平均値)

排出物	単位	実績値	法規制値	条例等
pH	mg/ℓ	6.9	5.8～8.6	5.8～8.6
全クロム	mg/ℓ	0.1以下	2	—
銅	mg/ℓ	0.1以下	3	—
フェノール	mg/ℓ	0.1以下	5	—
n-Hex	mg/ℓ	0.5以下	5	5
マンガン	mg/ℓ	0.1以下	10	—
鉄	mg/ℓ	0.1以下	10	—
フッ素	mg/ℓ	0.4	15	—
リン	mg/ℓ	0.3	8	—
窒素	mg/ℓ	4.2	60	—
COD	mg/ℓ	5.6	120	—
BOD	mg/ℓ	2.6	120	20
SS	mg/ℓ	3.0	120	120
大腸菌	個/cm ³	31.4	3,000	3,000

地域と一体、環境保全のエース企業へ



工場長
坂入 宏治

宮城県に協力会社14社とともに企業進出して6年あまりになります。日本有数の米どころとあって、のどかな風景の中にも環境保全に対する厳しい注文がありました。開かれた工場として小学生から婦人会、老人会の方々まで工場見学会を催し、工場や商品を知っていた

だくことで、環境対応万全の印象を持っていただきました。近くの川に鮎の稚魚を放流したり、協力会社社員と合同で工場周辺道路の一斉清掃も行っています。「環境問題を起こさない」から「よりよい環境づくり」へと、地域の環境モデル事業所をめざしています。



「ゴミゼロ大作戦」と銘打って近隣の清掃活動を実施

関東工場

〒306-0213

茨城県猿島郡総和町北利根2

設立年月:1970年8月

工場総面積:181,504m²

ISO14001認証取得
2001年1月29日



主なエネルギー・資源使用量

エネルギー・資源	単位	消費量
電力	kWh	11,983,392.0
灯油	kℓ	1,101.0
A重油	kℓ	0.0
LPG	m ³	511,827.0
上水使用量	m ³	24,326.0
地下水使用量	m ³	151,993.0

副産物発生総量及び主要品目(単位:t)

発生物	総量	リサイクル量	処分量	リサイクル率
副産物総量	5,891.4	5,887.1	4.3	100%
木くず	1,462.4	1,462.4	0.0	100%
廃プラ	114.3	114.3	0.0	100%
金属くず	2,225.8	2,218.1	7.7	100%
ガラス・陶磁器くず	925.5	925.5	0.0	100%

大気分析結果(数値の最も大きいもの)

排出物	単位	実績値	法規制値
NOx	ppm	42	230
SOx	m ³ N/h	0.02	1.14
ばいじん	g/m ³ N	0.005	0.2

水質分析結果(01年11月～02年10月の平均値)

排出物	単位	実績値	法規制値	条例等
pH	mg/ℓ	7.7	5.8～8.6	5.8～8.6
全クロム	mg/ℓ	0.08	2	1
銅	mg/ℓ	0.08	3	3
フェノール	mg/ℓ	0.08	5	1
n-Hex	mg/ℓ	0.5	5	5
マンガン	mg/ℓ	0.32	10	1
鉄	mg/ℓ	0.16	10	10
フッ素	mg/ℓ	1.26	8	8
リン	mg/ℓ	0.47	16	16
窒素	mg/ℓ	15.23	120	120
COD	mg/ℓ	6.46	—	—
BOD	mg/ℓ	3.06	160	25
SS	mg/ℓ	1.29	200	40
大腸菌	個/cm ³	259	3,000	3,000

地域と信頼で結ばれる工場をめざして



工場長
取締役・常務執行役員
生産担当
和田 純夫

総和町に来て30年経ちますが、当工場はまさに、地域の皆さまのおかげで発展してきました。地域への恩返しという観点から、また将来にわたり「豊かな持続可能な社会」を実現したいとの思いから、環境へ配慮した工場運営をめざしています。近隣の中学校や高

校の生徒が企業見学に訪れたり、グラウンドを貸し出したりと、地域住民の方々とのふれあいを持つ機会を数多く設け、2001年6月には茨城県より「地球にやさしい企業一省エネルギー部門」の表彰も受けています。



総和南中学校の生徒約200名が住まいの夢工場で写生大会

静岡工場

〒437-1495
 静岡県小笠郡大東町中1100
 設立年月:1980年8月
 工場総面積:246,146m²

ISO14001認証取得
 2000年7月31日



■主なエネルギー・資源使用量

エネルギー・資源	単位	消費量
電力	kWh	9,545,640.0
灯油	kℓ	652.9
A重油	kℓ	511.3
LPG	m ³	324,939.9
上水使用量	m ³	79,467.0
地下水使用量	m ³	0.0

■副産物発生総量及び主要品目(単位:t)

発生物	総量	リサイクル量	処分量	リサイクル率
副産物総量	5,416.7	5,408.0	8.7	100%
木くず	1,222.0	1,222.0	0.0	100%
廃プラ	98.7	98.7	0.0	100%
金属くず	1,768.8	1,768.8	0.0	100%
ガラス・陶磁器くず	1,357.9	1,357.9	0.0	100%

■大気分析結果(数値の最も大きいもの)

排出物	単位	実績値	法規制値
NOx	ppm	73	120
SOx	m ³ N/h	0.31	0.996
ばいじん	g/m ³ N	0.130	0.15

■水質分析結果(01年11月~02年10月の平均値)

排出物	単位	実績値	法規制値	条例等
pH	mg/ℓ	7.3	5.8~8.6	5.8~8.6
全クロム	mg/ℓ	0	2	2
銅	mg/ℓ	0	3	1
フェノール	mg/ℓ	0	5	5
n-Hex	mg/ℓ	0.5	5	3
マンガン	mg/ℓ	0	10	10
鉄	mg/ℓ	0	10	10
フッ素	mg/ℓ	0.7	15	0.8
リン	mg/ℓ	0	16	0.1
窒素	mg/ℓ	—	120	—
COD	mg/ℓ	—	160	—
BOD	mg/ℓ	2.0	160	20
SS	mg/ℓ	0.6	200	30
大腸菌	個/cm ³	0	3,000	3,000

地域の環境保全活動の輪へ積極参加



工場長
 吉田 憲五

焼却炉の停止・解体などを実施して2002年5月にゼロエミッションを達成いたしました。今後も「学び・試して・取り入れていく」努力とともに、環境技術の向上をめざしてまいります。また、工場の生産活動に限定せず、私たちが少しでも環境に良い影響を与えることのできる

活動の輪へと積極的に加わって、その輪を広げていきたいと思っております。社員家族も含めた地域の海岸清掃活動への参加など、会社と家庭での活動が一体となることで相乗効果が生まれ、加速度を持って環境活動を推進できると感じています。



海岸の清掃活動に参加

滋賀工場

〒520-3082
 滋賀県東海市下鉤333
 設立年月:1961年6月
 工場総面積:174,779m²

ISO14001認証取得
 2000年12月25日



■主なエネルギー・資源使用量

エネルギー・資源	単位	消費量
電力	kWh	9,688,503.0
灯油	kℓ	770.0
A重油	kℓ	0.0
LPG	m ³	98,894.0
都市ガス	m ³	762,425.0
上水使用量	m ³	23,520.0
地下水使用量	m ³	0.0
工業用水使用量	m ³	645,400.0

■副産物発生総量及び主要品目(単位:t)

発生物	総量	リサイクル量	処分量	リサイクル率
副産物総量	3,430.3	3,401.3	29.0	99%
木くず	813.9	813.9	0.0	100%
廃プラ	61.4	61.4	0.0	100%
金属くず	1,625.7	1,625.7	0.0	100%
ガラス・陶磁器くず	318.9	318.9	0.0	100%

■大気分析結果(数値の最も大きいもの)

排出物	単位	実績値	法規制値
NOx	ppm	62	180~250
SOx	m ³ N/h	0.05	0.94~2.3
ばいじん	g/m ³ N	0.010	0.20~0.30

■水質分析結果(01年11月~02年10月の平均値)

排出物	単位	実績値	法規制値	条例等
pH	mg/ℓ	7.6	5.8~8.6	6~8
全クロム	mg/ℓ	—	2	0.1
銅	mg/ℓ	—	3	1
フェノール	mg/ℓ	—	5	1
n-Hex	mg/ℓ	0.5以下	5	3
マンガン	mg/ℓ	—	10	10
鉄	mg/ℓ	—	10	10
フッ素	mg/ℓ	—	15	8
リン	mg/ℓ	0.1以下	16	0.5
窒素	mg/ℓ	0.4	120	8
COD	mg/ℓ	2.5	160	15
BOD	mg/ℓ	1.2	160	15
SS	mg/ℓ	1.4	200	20
大腸菌	個/cm ³	15.2	3,000	1,500

外部コミュニケーションの充実も大切な取り組み



工場長
 常務執行役員
 松本 雄三

ゼロエミッションの達成とともに、環境活動に関する問い合わせや講演依頼を県内外からいただくようになりました。社会全体が「環境」を注視していることを実感しています。環境への取り組みには「一企業内での活動範囲」と「企業の枠を越えた範囲」の活動があるように思

います。当工場では2002年5月に独自の環境情報冊子を発行するなど、積極的な情報公開を行ってまいりましたが、今後は、企業間の連携や地域社会への還元をふまえた活動を視野に入れ、私たち工場の果たすべき役割を積極的に果たしていきたいと思っています。



「びわ湖環境ビジネスメッセ 環境トップセミナー」で講演

兵庫工場

〒673-1314
兵庫県加東郡東条町横谷字石谷798
設立年月:1985年7月
工場総面積:59,051m²

ISO14001認証取得
2001年2月26日



主なエネルギー・資源使用量

エネルギー・資源	単位	消費量
電力	kWh	1,867,146.0
灯油	kℓ	0.1
A重油	kℓ	904.9
LPG	m ³	58,005.0
上水使用量	m ³	29,120.0
地下水使用量	m ³	3,701.7

副産物発生総量及び主要品目(単位:t)

発生物	総量	リサイクル量	処分量	リサイクル率
副産物総量	605.6	605.0	0.6	100%
木くず	1.9	1.4	0.5	74%
廃プラ	88.5	88.5	0.0	100%
金属くず	14.3	14.3	0.0	100%
ガラス・陶磁器くず	490.1	490.1	0.0	100%

大気分析結果(数値の最も大きいもの)

排出物	単位	実績値	法規制値
NOx	ppm	90	180
SOx	m ³ N/h	0.20	1.5
ばいじん	g/m ³ N	0.056	0.3

水質分析結果(01年11月~02年10月の平均値)

排出物	単位	実績値	法規制値	条例等
pH	mg/ℓ	7.4	—	5.8~8.6
全クロム	mg/ℓ	—	—	2
銅	mg/ℓ	—	—	3
フェノール	mg/ℓ	—	—	5
n-Hex	mg/ℓ	1.0	—	5
マンガン	mg/ℓ	—	—	10
鉄	mg/ℓ	—	—	5
フッ素	mg/ℓ	—	—	15
リン	mg/ℓ	—	—	—
窒素	mg/ℓ	—	—	—
COD	mg/ℓ	41.0	—	100
BOD	mg/ℓ	48.0	—	100
SS	mg/ℓ	17.0	—	90
大腸菌	個/cm ³	600	—	3,000

※工場規模により法規制に該当せず。

「豊かな環境づくり」の実現のために



工場長
松永 康一

ゼロエミッションへの取り組みをはじめた当初は、廃棄物量が1ヵ月100t近くあり「本当にできるのか」との不安もありました。しかし「ゴミはゴミ箱に捨てればいい」から「どの箱に分別するか」と従業員全員が「分別があたり前」の意識へと変化、2002年5月に達成することが

できました。防音壁などの設置による騒音対策、また、従業員、工場乗り入れ車両へのエコドライブも推進しています。

今後も地域と調和した「豊かな環境づくり」をめざし、廃棄物のさらなる減量化と自社リサイクル化に向けて活動を進めてまいります。



廃棄物の7割を占めていた各種コンクリートの分別を徹底

山口工場

〒747-1221
山口市鑄銭司5000
設立年月:1973年8月
工場総面積:228,667m²

ISO14001認証取得
2000年11月29日



主なエネルギー・資源使用量

エネルギー・資源	単位	消費量
電力	kWh	9,389,320.0
灯油	kℓ	573.5
A重油	kℓ	0.0
LPG	m ³	365,554.7
上水使用量	m ³	42,684.0
地下水使用量	m ³	22,505.0

副産物発生総量及び主要品目(単位:t)

発生物	総量	リサイクル量	処分量	リサイクル率
副産物総量	3,094.4	3,048.2	46.2	99%
木くず	958.8	912.8	46.0	95%
廃プラ	126.3	126.1	0.2	100%
金属くず	1,189.5	1,189.5	0.0	100%
ガラス・陶磁器くず	387.6	387.6	0.0	100%

大気分析結果(数値の最も大きいもの)

排出物	単位	実績値	法規制値
NOx	ppm	7	250
SOx	m ³ N/h	0.05	0.63
ばいじん	g/m ³ N	0.001	0.3

水質分析結果(01年11月~02年10月の平均値)

排出物	単位	実績値	法規制値	条例等
pH	mg/ℓ	7.1	5.8~8.6	5.8~8.6
全クロム	mg/ℓ	0.0	2	2
銅	mg/ℓ	0.0	3	3
フェノール	mg/ℓ	0.0	5	5
n-Hex	mg/ℓ	1.1	5	5
マンガン	mg/ℓ	2.2	10	10
鉄	mg/ℓ	0.0	10	10
フッ素	mg/ℓ	2.7	8	8
リン	mg/ℓ	0.7	16	16
窒素	mg/ℓ	6.8	120	120
COD	kg/日	3.0	11	—
BOD	mg/ℓ	8.6	160	160
SS	mg/ℓ	1.8	200	200
大腸菌	個/cm ³	0.0	3,000	3,000

わかりやすく「見せる」工場づくりへ



工場長
村尾 久司

当工場は水田地帯に位置しています。このため、排水には法規制値より厳しい自主基準値を設定して管理し、特に徹底した事故防止の取り組みを行っています。私たちが、あたり前に思っていることが、地域の皆さまにとっては心配事となっていることがあります。排出

水の測定・分析結果を公開し、定期的に地域の集会に参加し、ご要望に対応してご理解いただいています。

また、工場廃棄物の解体・分別を行うリサイクルセンターを拡充し現在整備を行っています。ぜひ見学にお越しください。



拡充されたリサイクルセンター

生産部門の環境会計

生産部門で遂行されている各々の環境保全活動を、それに要した費用と実現した環境保全効果の大きさの観点から管理するために、環境会計を実施しています。また、さまざまなステークホルダーの方々が積水ハウスを評価するのに必要な情報を提供するために、環境会計データを公表します。

2002年度環境保全活動に関わる環境会計データ

(単位:千円)

環境保全活動	環境保全コスト (投資額)	環境保全コスト(費用額)				経済効果	経済収支 ^{※1}
		廃棄物処分費	リサイクル委託費	環境保全減価償却費	その他の費用額		
廃棄物削減・リサイクル	369,850	1,199	254,915	19,409	37,448	31,774	△281,197
資源・エネルギー有効活用	500,390	0	0	48,448	0	368,645	320,197
有害物質削減	1,493,036	740	200	68,787	180,858	0	△250,584
その他の活動	97,400	0	0	2,520	10,164	0	△12,684
合計	2,460,675	1,939	255,115	139,164	228,470	400,420	△224,268

※1 経済収支:経済効果について、その本質は環境保全コストの一部回収であると位置付け、その回収部分を考慮した上での財務パフォーマンスを経済収支としています。これは、経済効果額から環境保全コストの費用額を差し引くことで算出します。

2002年度の活動内容の分析と評価

2002年度は、生産部門のゼロエミッションの実現に向けて注力し、これを達成することができました。それに要したコストに関しても、環境会計を導入することによってエネルギー費用や減価償却費などを含めた環境保全コストとして把握し、精度を高めて管理することが可能になりました。

徹底したリサイクルを進めた結果、リサイクル委託費が前年度比92百万円増えて255百万円になりましたが、今後とも環境保全コストをしっかりと継続的に把握することによって、「ゼロエミッション」を維持しながら自社におけるクローズドリサイクルシステムの拡大やより効率の高い活動への改善を継続していく指針として活用したいと考えています。そのために環境保全コストは排出物の種類ごとに把握するしくみにしています。

同様に、廃棄物削減・リサイクル活動以外の環境保全活動についても環境会計データによる管理を活用して活動の質を高めていきます。

【認識のしかた】

(1) 環境保全活動

6工場で運用されている環境マネジメントシステムにおいて、目的・目標を達成するための活動を「環境保全活動」と称しています。

(2) 環境保全コスト

環境保全コストの投資額は、固定資産台帳に記載されている償却資産のうち当該環境保全活動に係るものを抽出し、これの当期取得価額をもって認識しています。環境保全コストの費用額は、当該環境保全活動を実施するにあたって発生する費用または損失(環境保全設備の減価償却費を含む)をもって認識しています。ただし、研究開発費と人件費を含めていません。これは、研究開発費と人件費に関しては環境会計による管理よりもむしろ全社的な管理の下におくのが、現時点ではより現実的で望ましいと判断しているためです。

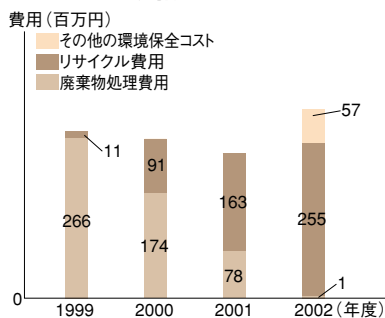
(3) 環境保全効果

個々の環境保全活動ごとに、当該環境保全活動を行った結果発生した環境負荷の大きさと、当年度にそれを行わなかったと仮定した場合の環境負荷の大きさを比較し、その差をもって環境保全効果と認識しています。基準年度(あるいは前年度)と当年度との環境負荷発生量の差ではありません。

(4) 経済効果

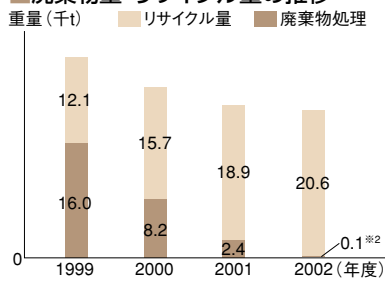
個々の環境保全活動ごとに、当該環境保全活動の実施に伴って、費用の節減が見られた、あるいは不用品の売却による収益が得られた、という場合は、費用の節減額や売却収益の大きさをもって経済効果を認識しています。「費用節減」は基準年度(あるいは前年度)と当年度との差ではありません。

「廃棄物削減・リサイクル」活動に関わる費用推移



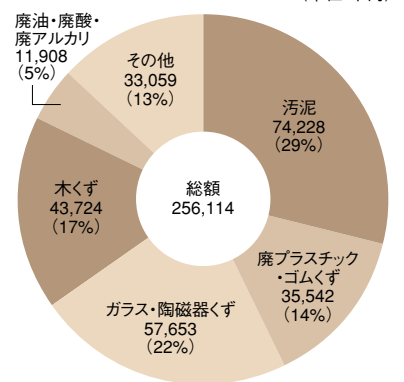
(注) 廃棄物削減の活動に関して、2001年までは廃棄物処分費用とリサイクル費用とを把握し管理していましたが、2002年度はこれらの費用に減価償却費やエネルギー費などを加えたすべての環境保全コスト(投資額を除く)を把握・測定しました。

廃棄物量・リサイクル量の推移

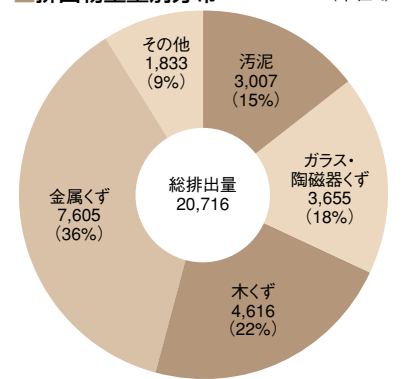


※2 2002年度の廃棄物処理は、5月のゼロエミッション達成までの発生分です。

「廃棄物削減・リサイクル」活動に関わるコスト



排出物重量別分布



【把握のしかた】

(1) 環境保全コスト

投資額ならびに費用額のうち減価償却部分は、環境割合で按分して算出しました。費用額のうち減価償却部分以外の部分は差額を求めて算出しました。ただし、このように算出した結果が負の値となった場合は、これを環境保全コストと認識するのではなく、その絶対値をもって経済効果(費用節減)と認識・把握しました。

(2) 環境保全効果

環境マネジメントシステムで管理対象とする環境負荷項目あるいは環境負荷抑制項目ごとに、環境保全活動を行った場合に発生した環境負荷の量とそれを行わなかったと仮定した場合に想定される環境負荷の発生量とを絶対量と比較し、両者の差を当該環境負荷項目の計量単位(トン、kg など)で表しました。

(3) 経済効果

費用節減額の把握については、上述したとおり環境保全コストを差額により算出しようとした際に負の値が算出された場合にその絶対値をもって経済効果の費用節減額と認識・把握します。売却収益額は、当該環境保全活動の実施に伴って不用品の売却により計上された財務会計上の収益の大きさをもって把握します。

【集計対象期間】

2002年2月1日から2003年1月31日まで

【集計対象範囲】

積水ハウス株式会社6工場
 東北工場(宮城県加美郡)・関東工場(茨城県猿島郡)・静岡工場(静岡県小笠郡)・滋賀工場(滋賀県栗東市)
 兵庫工場(兵庫県加東郡)・山口工場(山口県山口市)

従業員との関わり

担当者インタビュー

ECO-part of my job



人事部
人権推進室長
久保 正嗣

「人間愛を実践し、自律・成長できる人材となしてほしい」

当社企業理念の根本哲学である「人間愛」とは、相手の幸せを願いその喜びを我が喜びとする奉仕の心をもって何事も誠実に実践すること。ひたすら愛することに徹し、決して見返りを求めないということなのです。つまりいかに自分以外の人たちの幸福を優先させて考えるか、他人が喜ぶことならばこの身をいとわずよき事

のために微笑みをもって供することができるか否かが問われているのだと思います。

生命と財産を守り、街並みや景観を形成していく当社の事業は社会的責任も重く、儲け主義のみでは決して成り立ちません。人間としての生き方をも問われるこの理念を具現化することが真のCSにつながり、社会に貢献できるのです。

また、当社では人間の根源的なテーマである人権に関する啓発や教育に20年余にわたり取り組んできました。相手の立場に立ち、相手の痛みがわかる人権の視点こそ「人間愛」の原点であると考えています。

「人間愛」の考えを実践し、積水ハウスを支える気概を持って自律・成長してほしいと思います。そのために社員が自らのキャリア構築を志し、継続して自己啓発を行う環境づくりにこれからも取り組んでいきたいと思っています。

人権教育について

1980年に人権擁護推進委員会が設置されて以来、毎年、全従業員に対して人権教育を実施しています。従業員一人ひとりが、企業理念である「人間愛」を事業活動を通じて実践し、人権上の社会的責任を果たしていくため、年度ごとに計画を策定し、さまざまな人権問題を探究し、新しい認識を学習しています。研修の実施や人権啓発レポートの発行のほか、ボランティア精神の育成とノーマライゼーション思想の普及のため1994年以来、社会福祉法人ノーマライゼーション協会主催の「チャリティフリーマーケット」にも継続参加しています。



人権啓発レポートを毎年発行

第33回部落解放・人権夏期講座開催幹部社員の人権研修

2002年8月、和歌山県高野山で「第33回部落解放・人権夏期講座開催」（主催・社団法人部落解放・人権研究所）が3日間にわたり開催されました。人権問題や啓発活動について学ぶため、当社からは支店長・所長などの幹部社員が45名参加。昼間は各自が選択する課題別講演を受講し、夜は当社独自の研修会を開いて議論を深めました。既に延べ730名以上が学んでいます。参加者にとっては、各自の事業所で活かせる具体的な行動を知る貴重な機会となりました。



全国から2,000人以上が参加した講座

エコリーダーズ・ネットワークの構築

各支店や営業所ごとに、エコリーダーを選出し、環境問題に関わる各現場の業務内容や、地域の特性に応じた事業所レ

ベルでの取り組みや工夫などの情報を集約するシステム「エコリーダーズ・ネットワーク」を構築しました。現場からの声を取り入れ、双方向で情報を共有することにより、企業全体の環境意識の向上を図っています。

社員の自己啓発支援制度

職種ごとに実施している職能集合研修やOJTだけでなく、積極的な自己啓発を支援する目的で会社の一部補助による120種類を超える通信教育の斡旋、650タイトル以上の無償のレンタルビデオライブラリー制度などを実施しています。

また、社員の自己啓発意欲の高揚などを図るために約30年前より社員の各種資格習得に対する祝金支給制度を設けており、現在その対象資格数は140種類以上にのぼります。

事故防止の安全対策

全国安全週間（7月1～7日）にちなみ、災害ゼロの安全職場を目指して安全標語を募集したところ社内をはじめ関係会社、協力会社の方々の家族から、標語20,756名、図案105名の応募をいただきました。15年にわたり毎年多数の応募があり、家族も含め安全への関心の高さが感じられました。当社では「目で見える安全ポイント集」や「点検・補修安全作業マニュアル」を有効活用し、積極的に災害防止を進めています。



安全衛生スローガンポスター

開発に携わる社員による座談会

当社の社員が、環境についてどのように仕事の中で意識して実際の業務に取り組んでいるかを中心に、本社勤務の女性社員による座談会を行いました。



CS推進部
品質保証室
山田 陽子

1987年入社。お客様の入居後のサポートや品質保証に関する業務を担当。



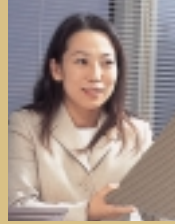
設計部
大阪計画設計室
前原 和美

1990年入社。主に個人邸、展示場、ショールームなどの設計業務や内装開発を担当。



商品開発部
企画デザイン室
神野 史麻

1994年入社。1999年環境プロジェクトで環境報告書初年度版の制作に携わる。住宅モデルの企画を担当。



商品開発部 内装設備設計室
システム企画グループ
河崎 由美子

1987年入社。生活ソフトや内装のシステムに関する開発・企画を担当。



商品開発部 内装設備設計室
インテリアスケルトン開発グループ
小谷 美樹

1988年入社。断熱、遮音などの内装の性能に関するシステム設計の部材開発を担当。

日頃の業務では、どのように「環境」を意識していますか？

小谷 当社は高性能断熱仕様を業界でいち早く打ち出しました。96年には高性能ペアガラスをセントレージΣに標準採用し、さらに次は30%エネルギーカットの断熱が求められてきました。断熱設計する上で難しいのは、限られたスペースに最適な断熱性能を確保すること。熱の逃げ道をつくらないうために断熱材をできるだけ連続させるという点に気をつけて設計しています。

河崎 私は、社内でゴミ分別を徹底するようになってから、商品の企画のときにもゴミについて考えるようになりました。たとえば、簡単にはがして交換できるタイルカーペットを作る場合、使い終わったものはどうするのか？ 以前は後のことまであまり考えませんでした。燃やしても有害物質を出さないもの、リサイクルできるものなど、部材が生まれてから最後までライフサイクルを考えて企画するようになりましたね。

神野 日常的なことでは、プレゼンテーションのときに紙の資料をわたさずにプロジェクターを使用するとか、電子ファイルでわたすとか、できるだけ省資源を心がけています。

設計の業務においては、環境と意匠性については多少ジレンマを感じています。たとえば、床の素材を検討する場合、ツルツとしたおしゃれな質感がほしいのに、環境に良いとされる素材には、そのようなものがない場合があります。デザイン性がもっとよくなれば使いやすい。環境・意匠性の両面でのよいものを開発していきたいと思っています。

前原 いま、たまたま個人邸の設計に携わっているのですが、環境や健康にとってもこだわりをお持ちのお客様なんです。床下に備長炭を敷き詰め、床材はムク。室内空気の清浄化はもちろん、高性能の浄水器を採用されています。お客様の中にはたくさんの情報を集めておられる方もいらっしゃいますので、私たちも、営業・設計にかかわらず、全社員がもっと勉強しなければと感じています。

山田 住宅の長寿命化をめざし、それを裏付ける品質保証に関する業務に携わっています。品質の高いモノを大切に扱うと愛着がわきますので、住宅を壊す前にリフォームで性能を上げるなどの



選択肢が増えます。お客様に当社の住宅に永く住んでいただくことで、間接的ではありますが、環境に貢献できるのではないかと思います。

お客様にもっと積水ハウスの良さを知っていただくために、どうすればよいと思いますか？

小谷 納得工房やテーマハウスなどの展示施設で宿泊していただけたらいいと考えています。「高断熱はこんなに温かくて快適」と実感していただけたら、キッチンやお風呂も、見るだけでなく実際に使ったり寛いだり。滞在型で体験していただけたら、もっと納得してもらえるのでは？

河崎 同感です。それから、地域の展示場などは子どもの社会見学などにも利用していただけたら良いですね。子どもの頃から住体験を豊かにし、住まいについての関心を高めることが今後ますます大切だと思います。

前原 当社はアピールが少ないとお客様によく言われます。入居後もこんなに長くきちんとサポートしてくれるとは知らなかったと。

河崎 住宅メーカーとして良いモノを提供するという面では、自信を持っています。今後は地域貢献など、大企業としての社会的責任を果たすことも大切だと思います。そしてそれを社会にきちんと伝えることでよね。

神野 誇りの持てる会社にするために、私たちも参加していきたいですね。

山田 積水ハウスには、お客様に対して存続する責任があります。モラルの高さがお客様に対する社員の自信にもなるし、お客様の信頼や満足につながっていくのではないかと思います。

その他、このような意見がありました。

環境という視点から住まいを考える

- 家族構成や生活のスタイルが同じでも、家が大きくなるだけで光熱費がかかる。コンパクトで性能の高い車が環境に良いように、家も不自由なく住めるコンパクトな家であっても良いのでは。
- 建物は買い替えるのは難しい。既存の家に何かをつければ新築と同じ位の性能になる部材のシステムなども含めてサポートしていくのが、今後のメーカーとしての姿勢。

家庭生活などで環境を意識すること

- ガーデニングが趣味なので、時間があれば地域の緑化にも関わっていきたい。自分の家の枠だけでなく、街づくりなどに広げていきたい。
- 1年前に大阪から彦根に引っ越したが、琵琶湖に近いので環境意識が高く、ゴミの分別も徹底している。10種類以上に分別するのでかなり大変。こうした地域性によりキッチンのあり方も変わりますので、実生活の体験はお客様に提案する上で大切なことだと思う。

働きかた、働きやすさ

- 女性であることを意識せずに働いている。仕事は、自己実現の場として前向きにとらえたい。女性であることが一つの個性である。違う視点からの意見を求められることもあるので、逆に活かせば良いと思う。
- 今は、人の好みや志向は人それぞれで、自分が女性だから仕事がつまらぬ点もあるし、逆のパターンもある。仕事によっては男女差は一概には通用しなくなっている。

会社に対して期待すること

- 社員研修にも、もっと環境をテーマにしたものがあってもいいかもしれない。人権教育に匹敵する大切なテーマ。
- みんなが環境を考え、その思いが商品によって社会に広がっていけば、社員もこれまで以上に誇りを持てるようになる。

地域社会との関わり

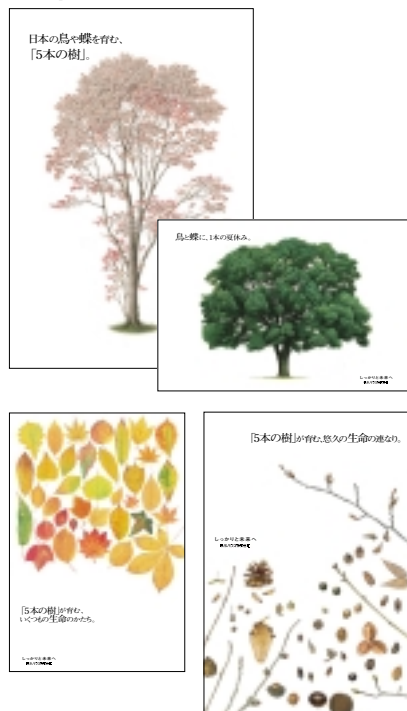
コミュニケーション についての考え方

当社の事業や環境に関する活動についてご理解いただくため、さまざまなメディアを通じて情報を開示しています。また、当社展示場や各施設に会場された方からのご意見や、電子メールなどによるお問い合わせにお応えする体制を整えています。今後も一層コミュニケーションの充実を図っていきます。

環境コミュニケーション ツールの制作

従業員やお客様に対して、当社の環境活動の考え方や具体的な行動などを理解していただくため2000年度から毎年環境報告書を発行しています。また当社のホームページにも掲載しています。さらに当社の環境技術をわかりやすく解説する「エコアイテムガイド」、美しい自然をモチーフにした「エコポストカード」など、さまざまなコミュニケーションツールを製作し、環境意識の啓発や実践に活かしています。

■四季のエコポスター



住まいの夢工場

お客様が納得のいく住まいづくりを進めていただくために、「住まいの夢工場」や「住まいの家学館」など住まい手体験型の施設を全国各地に開設しています。「住まいの夢工場」では、地震や火事などの災害に強い先進技術をさまざまな模型や体験装置を使ってご紹介しています。また実物に触れながら防犯・防音・断熱・気密などの性能、照明や収納の機能性、ユニバーサルデザインなど、当社商品の品質、仕様を楽しく体感していただけます。



住まいの夢工場（開業工場）



住まいに関する先進技術を体験

篠山市で小学生と ビオトープづくり

2002年11月、兵庫県篠山市にある「篠山チルドレンズミュージアム」で地元の小学生のビオトープづくりに協力しました。

「篠山チルドレンズミュージアム」は、学校統合で閉鎖された旧多紀中学校を活用し、創造性豊かな人づくりと、子どもたちの「生きる力」を育む拠点づくりをめざして21世紀最初の夏休みにオープンした施設です（名誉館長/河合隼雄氏）。

今回は当社から講師を派遣し、篠山市立村雲小学校の4年生7人とともに、ビオトープや自然環境についての話をしたり、汗を流しての作業を楽しみました。子どもたちは予定地にきたセグロセキレイの

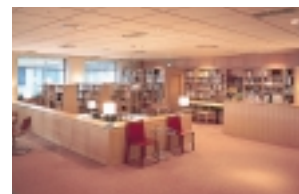
姿や、ビオトープづくりの作業を通じて、水の大切さや自然のしくみの素晴らしさを実感した様子でした。当社では、今後もこういった地域の環境学習を積極的にサポートしていきます。



ビオトープの予定地にセグロセキレイを発見

図書館や公開学習講座で 住まいの情報を提供

●住まいの図書館



住まいや建築一般、造園、インテリアなどの書籍・雑誌を自由に閲覧していただけます。

東京都渋谷区・千葉県松戸市・総合住宅研究所

●総合住宅研究所 納得工房



すまい塾

積水ハウスの一級建築士やインテリアコーディネーターなど、様々な分野の専門家を講師とする公開学習講座「すまい塾」を開催。住まいづくりの基本から納得のいく家を作るためのポイントなど、住まいの総合的な知識を学んでいただけます。

京都府相楽郡木津町



特定非営利活動法人 西山卯三記念 すまい・まちづくり文庫に協力

建築学者で京都大学名誉教授の故西山卯三氏が生涯にわたり収集・創作した研究資料約10万点を納得工房内の文庫スペースで公開。すまい・まちづくりに関心を持つ市民・学生・研究者とのネットワークの強化やシンポジウムの開催、研究成果の出版事業などを積極的に展開しています。

京都府相楽郡木津町

会社概要

社名	積水ハウス株式会社
本社	〒531-0076 大阪市北区大淀中1丁目1番88号 梅田スカイビル タワーイースト
設立年月日	1960年8月1日
資本金	186,554百万円(2003年1月末現在)
発行済株式総数	709,385,078株(2003年1月末現在)
従業員数	14,876人(2003年1月末現在)



主な事業内容

- ・建物、構築物の設計、施工、請負および監理
- ・建築材料の製造ならびに売買
- ・緑化造園材料その他土木建築工事用資材の売買
- ・地域開発、都市開発、土地造成および環境整備に関する調査、企画、設計、施工、監理、エンジニアリング、マネジメントおよびコンサルティング業務の請負または受託
- ・建設工事の設計、施工、請負ならびに監理
- ・土木工事、大工・左官・土工・屋根工事、塗装・防水工事、内装仕上・建具工事、等の設計、施工、請負および監理
- ・不動産の売買、賃貸借、管理および鑑定ならびに不動産経営コンサルティング
- ・不動産の売買および賃貸借の仲介および代理
- ・樹木の育成および売買ならびに造園の設計、施工および請負 他

事業所および関連会社

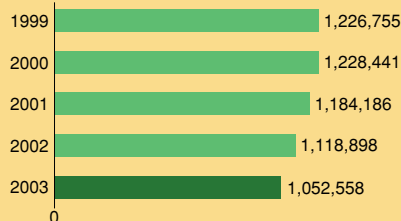
積水ハウス株式会社(2003年2月1日現在)

営業本部	17
支店	69
営業所	251
リフォーム営業所	25
カスタマーズセンター	66

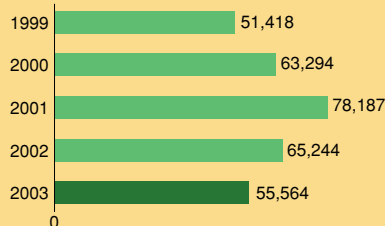
関連会社(99社 2003年2月1日現在)

積和不動産株式会社各社:全6社
積和建设株式会社各社:全71社
ランドテック積和株式会社各社:全3社
グリーンテクノ積和株式会社各社:全4社
エスジーエム・オペレーション株式会社
神戸六甲アイランド株式会社
六甲アイランドケーブルビジョン株式会社
六甲アイランドエネルギーサービス株式会社
西宮マリナシティ開発株式会社
新西宮ヨットハーバー株式会社
積水ハウス梅田オペレーション株式会社
セキハ株式会社
株式会社住まいの図書館
株式会社エスイーエー
スカイレールサービス株式会社
積和管理株式会社
積和データサービス株式会社
Sekisui Deutschland Bau GmbH

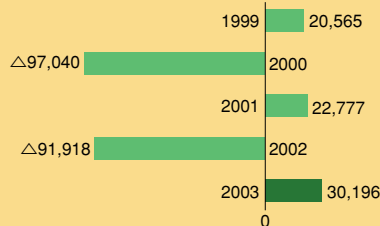
■売上高(1月期)(単位:百万円)



■経常利益(1月期)(単位:百万円)



■当期純利益(1月期)(単位:百万円)



■従業員数(4月1日現在)(単位:人)



環境行動のあゆみ

- 1960 ▶ 積水ハウス産業株式会社の設立
- 1963 ▶ 積水ハウス株式会社に社名変更
- 1965 ▶ 滋賀工場、電着塗装設備稼働
- 1973 ▶ 滋賀・関東両工場、「工業製品住宅等品質管理優良工場」として第1号の通産大臣認定を受ける
- 1975 ▶ メタルフォームの導入/部材の複合化/「車いす住宅」を社会復帰訓練用に熊本県の病院内に建設
- 1981 ▶ 日本初の「障害者モデル住宅展示場」建設への参加
- 1985 ▶ パッシブソーラーシステム「セキスイハウスPSH-211」が建設大臣認定を受ける
- 1987 ▶ 床下土間コンクリートの標準化
- 1990 ▶ 総合住宅研究所完成
- 1992 ▶ コンピュータ管理によるマニフェスト伝票の運用開始/ベース基礎型枠へのカルフォームの採用
- 1994 ▶ サッシの気密性向上/滋賀工場が「エネルギー管理優良工場」近畿通産局長賞(電気部門)を受賞
- 1996 ▶ クロス接着剤のゼロホルマリン化/高性能遮熱断熱複層ガラスを標準採用した高性能断熱仕様「セントレージΣ」発表
- 1997 ▶ 太陽光発電住宅「ソーラーΣ・A」発表
- 1998 ▶ 「ハイブリッド換気システム」の開発、断熱アルミサッシの開発/床、壁、天井の内装材のF1・E0化
- 1999 ▶ 床材、外壁のノンアスベスト化/浴排水再利用システム発表/環境景観デザインシステム「SHELD」の開発/「ECO21」が環境共生住宅認定を取得/環境未来計画発表/「グルニエデザインシリーズ」「エム・シャントアRX(SW)」で次世代断熱仕様の標準採用/一部地域で石膏ボードプレカット先行導入
- 2000 ▶ 「ゼロエミッション」プロジェクト開始/ユニバーサルデザイン具現化プロジェクトの発足/戸建住宅の断熱アルミサッシの標準化/電着塗料の鉛フリーへの切り替え開始/ホルムアルデヒド放散量社内基準の改定(Fc0・E0化)/「親自然をコンセプトにした「セントレージ・ギャラリー」発表/外構設計の関連会社「グリーンテクノ」設立
- 2001 ▶ 積水ハウス北陸、山梨、四国、山陰を合併/全6工場で環境ISO14001認証取得完了/「ビオガーデン〜5本の樹計画〜」開始/コモンシティ十王「城の丘」グッドデザイン賞受賞
- 2002 ▶ 全工場ゼロエミッション達成/新築戸建住宅において防犯住宅仕様を展開/住宅のユニバーサルデザインの本格展開

for the next stage

人に、街に、環境に。積水ハウス



積水ハウス株式会社

本社 〒531-0076 大阪市北区大淀中1丁目1番88号 梅田スカイビル
東京支社 〒151-8070 東京都渋谷区代々木2丁目1番1号 新宿メインズタワー
お問い合わせ先：環境推進部 TEL.06-6440-3374
ホームページ <http://www.sekisuihouse.co.jp/>

R100 R70



この印刷物について
用紙:表紙(古紙配合率70%)
本文(古紙配合率100%)
印刷:大豆油インキを使用

この印刷物はリサイクルに配慮して製本されています。

発行:2003年4月